

いよいよ明日が運動会本番です

ゴールデンウィーク明けから約3週間、子どもたちは、運動会の練習に励んできました。『練習はうそをつかない』という言葉がありますが、子どもたちは、運動会本番に向けて学校でも家でも練習を頑張りました。運動会本番に向けて一生懸命に頑張る過程がとても大事だと思います。明日の運動会本番にご期待ください。

また、明日の運動会は、3年ぶりに地域の方にもご来校いただき、子どもたちの頑張っている姿を観ていただけることを、大変うれしく思っております。同時に、閉校事業として、地域の方々にも『ふれあい玉入れ』にご参加いただき、子どもたちとともに平庄小学校での楽しい思い出を作ってくださいたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。



百点満点のビリ

運動会では、表現運動ともう一つ、徒競走を行います。徒競走と言えば、相田みつおさんの『いのちのバトン』を思い出します。

「順位をつけるのは走らない傍観者」

「走っている当事者は、ただひたすら走るだけ。」

いのちいっぱい走るだけ。みんな百点満点なのだ」

「それぞれに能力の差はあるけれど、いのちの尊さは同じ」(詩の一部抜粋)

なるほどと納得させられます。子どもたちは、いつも真剣です。自分の持てる力を精一杯発揮します。その精一杯の頑張りを称えたいです。

6年生が運動会の目標を再確認しました

最高学年である6年生は、運動会の縁の下の力持ちです。

いろいろな場面で、運動会を支えてくれます。

運動会まであと3日といった5月24日(水)に、クラスで、運動会の『自分達の目標(めざすべき姿)』について再確認しました。

百点満点のビリ (一部抜粋)

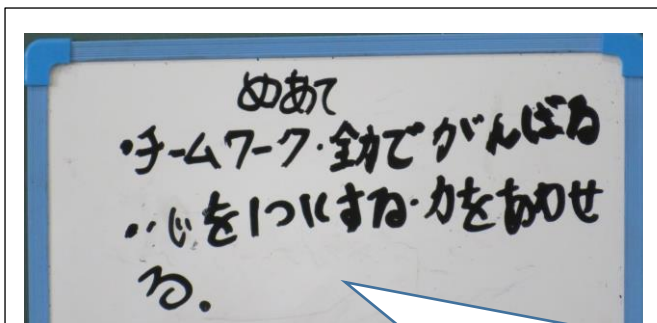
「わあ！！うちの太郎は一着よ！！」
 「うちの花子は二着だ！！」
 一着だ、二着だ、と
 順位をつけるのは大人達
 つまり、自分では走らない傍観者

走っている当事者 _____
 子供達は _____

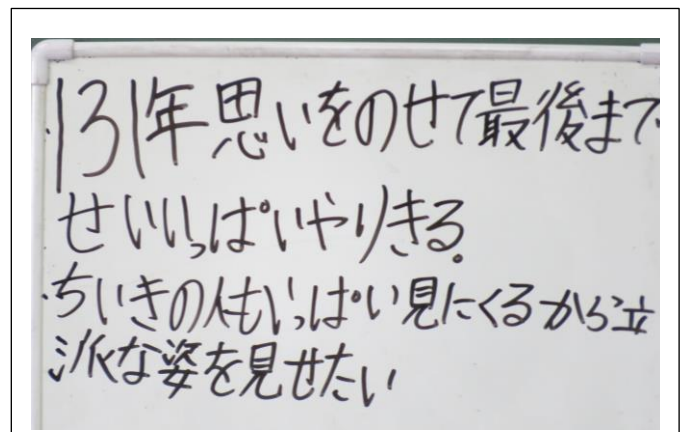
ただひたすら走るだけ
 いのちいっぱい走るだけ
 いのちいっぱい走ることに尊いのだ
 いのちいっぱい走ることで
 みんな百点満点なのだ

一着二着の順位はあるけれど
 一着も百点満点
 二着も百点満点
 そして
 百点満点のビリなのだ

一人一人の人間には
 それぞれに能力の差はあるけれど
 いのちの尊さは同じです
 どんな人のいのちでも
 平等に百点満点に
 尊いからです



子どもたちは、『全力で頑張る、運動会を楽しむこと』を再確認しました。そして、子どもたちに「誰が楽しむのでしょうか?」と問いかけ、『楽しむ』について考えてみました。自分達だけでなく、観客(観ている人)に楽しんでもらいたいと思いを確認しました。観客を巻き込むことは、狂言にもつながる話をしました。



『氷山の一角』

6年生の子どもたちに、『氷山の一角』の話をしました。子どもたちには、見えているところだけを見て判断するのではなく、見えないところに気づける人になってほしいということを、『氷山の一角』を例にとって話しています。

例えば、応援団を例に挙げて、考えてみました。

5月22日（月）の全校練習（応援合戦）では、自然と拍手が起こりました。紅白の応援団長をはじめ応援団員の一生懸命さや立ち振る舞いに感心させられました。一つ一つの所作に心が込めています。見えないところで、たくさんの努力をして、全校練習に臨んでいることが、発声や演技から伝わってきました。紅組も白組も精一杯の応援ができています。



昼休みや朝の時間を使って、一生懸命に応援合戦の練習をしました。
『しんどいことをしたらええことあるで！』一生懸命に頑張ったことは必ず報われます。本番が楽しみです。